

## 平成30年白老町議会産業厚生常任委員会協議会会議録

平成30年 1月 5日（金曜日）

開 会 午後 3時00分

閉 会 午後 3時23分

---

### ○会議に付した事件

1. 国保事業費納付金等第1回本算定結果報告について（町民課）
- 

### ○出席委員（6名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	本間広朗君
委員	氏家裕治君	委員	森哲也君
委員	松田謙吾君	委員	山田和子君

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○説明のため出席した者の職氏名

町民課長	畑田正明君
町民課主幹	斉藤大輔君

---

### ○職務のため出席した事務局職員

主査	増田宏仁君
書記	葉廣照美君

---

## ◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ただいまより、産業厚生常任委員会協議会を開会いたします。

（午後 3時00分）

---

○委員長（広地紀彰君） 協議事項といたしまして、国保事業費納付金等第1回本算定の結果報告についてであります。担当課よりの説明を求めます。

畑田町民課長。

○町民課長（畑田正明君） あけましておめでとうございます。ことしもよろしくお願ひいたします。本日はお忙しい中、委員会協議会を開催していただき誠にありがとうございます。

平成30年度から国保の広域化ということで、これにつきましては昨年来説明させていただいたところありますけれども、昨年11月に北海道から国保事業費納付金の第1回本算定結果が発表されました。本日はその結果について内容を説明させていただきます。

早速でございますが、斉藤主幹のほうからご説明させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

○委員長（広地紀彰君） 斉藤主幹。

○町民課主幹（斎藤大輔君） 私のほうから、お配りしております資料に沿ってご説明をさせていただきます。

1 ページ目に入ります。1. 事業費納付金本算定概要についてでございます。平成30年度からの新たな国保制度への移行準備の一環として、平成28年11月から平成29年8月までの間に3回の納付金仮算定を実施しております。この中で、算定方法の考え方や取り扱いなどの修正が行われまして、今回第1回の算定結果が公表されております。この結果を参考に、各市町村では平成30年度以降の保険税率の見直しを検討していくことになります。

2. 本算定実施時期です。記載のとおりでございます。2月上旬には平成30年度の確定納付金額が、北海道より通知される予定となっております。

3. 算定結果経緯についてでございます。ここの表にある納付金算定額の本算定の欄に書いてあります6億1,520万4,000円が北海道に支払う額となり、それをまかなうために必要な収入額ベースの必要保険税額が4億8,295万4,000円、それに収納率を加味した調定額ベースの標準保険税額5億3,321万2,000円で、納付金算定の考え方や公費の取り扱い方が変更されたことなどにより、本算定結果では減額となっており、保険税率についても全体的に下がっております。

続きまして、4. 本算定による激変緩和措置についてでございます。事業費納付金制度の導入により各市町村が本来集めるべき1人当たり保険税額が変化し、被保険者の税負担が急激に増加することがないように、都道府県単位で激変緩和措置が図られることとなりますが、本町は本算定結果でこの対象になってございます。ここの表にあるとおり、本来であれば収入額ベースの激変緩和前合計額5億3,001万9,000円が必要となりますが、第1回本算定で支援金分、介護分併せて、4,706万5,000円の激変緩和が図られ、8.9%減となる収入額ベースの激変緩和後合計額4億8,295万4,000円に圧縮されてございます。この措置は平成30年度から平成35年度までの6年間の時限的措置となっております。

平成28年度と1人当たり金額を比較して最大2%までに抑えるものとなっております。1番下の1人当りで見ますと、10万1,342円が必要な収入額ベース保険税でございますが、激変緩和措置により9万2,343円、2%増に抑えられております。なお、括弧書きで書いている金額なのですが、こちらにつきましては赤字補填額を除いた保険税額で比較した場合を記載しておりますが、実際は5,971円、6.9%増ということになってございます。

続きまして2ページです。5. 現行及び仮算定とのモデル世帯本算定結果比較であります。ここでは以前からお示ししております7つのパターンでの現行保険税と算定結果の比較をしております。最初の(1)、40歳以上夫婦2人世帯で控除後所得が200万円のモデルで算出した結果、現行保険税額は33万2,900円に対しまして、仮算定で徐々に圧縮され第1回本算定では34万4,500円、率にして3.5%増となっております。同じく(2)から(7)までのモデルを見ていただくとわかるとおり、どのパターンにおいても、本算定結果では仮算定で徐々に圧縮されてきて、国や道において設定条件の変更などにより、全体として減額となっているところでございます。

しかしながら、現行保険税との比較においてはすべて増額となっていることから、本町の現行保険税率は全道的に見ても今まで低く設定されていたことが分かりますし、今回の広域化による保険税率の見直しにおいては、少なからず改正が必要と判断しております。

続いて3ページに入ります。6. 管内及び類似町とのモデル世帯本算定結果比較についてでございます。ここでは第1回本算定結果をモデル世帯保険税の項目ごとに、胆振管内類似団体と比較した表で、下段には北海道の平均値を記載しております。ここでは、6パターンで比較してございますが、金額でいいますと管内で白老町は11市町中大体真ん中の6位から9位に位置しておりまして、管内の1位は全てむかわ町となっております。また、北海道平均との比較についてですが、本町は激変緩和措置が図られていることから北海道平均よりも低く設定されております。

次に4ページです。7. 管内及び類似町との保険税率等本算定結果比較でございます。白老町の所得割は第1回本算定結果10.58%、現行と比べ1.40%減、減額率は10.5%となっております。管内では所得割は10市町が現行より減となっております。1町だけが増、最も高い所得割率はむかわ町の11.82%で、白老町は管内9位となっております。

次に均等割です。白老町の均等割は5万208円、現行と比べ2万8,100円の増、増額率は78.7%です。管内11市町全てが現行よりも増となっております。最も高い均等割はむかわ町の5万6,804円で、白老町は同じく管内9位となっております。

次に白老町の平等割です。白老町の平等割は3万2,556円で現行に比べ4,544円の減、減額率は12.2%です。管内では8市町が現行より減となっております。3市町が増ということで最も高い平等割は伊達市の3万7,729円で、同じく白老町は管内9位となっております。

また、今回の本算定において激変緩和措置が図られている市町は、本町のほか苫小牧市、安平町、厚真町、洞爺湖町の4市町となっております。下のほうに書いてあります管外の森町から芽室町の5町は、白老と同じ赤字団体でございますが、本算定結果を比較してみるとどの町も激変緩和措置が図られていないため全てにおいて本町よりも高く設定されております。

続きまして5ページに移ります。8. 保険税率見直しの考え方についてでございます。保険税率改正の指標となる第1回本算定結果が公表されたことに伴いまして、本町においても具体的な見直

し作業を始めておりますが、標準保険率の考え方は、将来的な保険税水準の統一的な指針となっております。実際の保険税はそれぞれの実態に基づき各市町村が決定することとなっております。

このようなことから低所得世帯ほどアップ率が高い標準保険税率では支障が出るのが懸念されるため、所得区分に応じた検証を行い被保険者負担が過度とならないよう配慮しながら見直しを進めて行くことと、事業費納付金を支払うための不足分が出た場合の一般会計法定外繰入金の対応がどこまで可能なのかも合わせて協議を進めていきたいと考えております。

最後に、9. スケジュールです。昨年度から計3回行われました仮算定及び第1回本算定が終了し、今後は第2回本算定が行われ、2月に最終的な納付金額と標準保険税率が示されます。これを受けまして、昨年11月に町長から国保運営協議会に対して、平成30年度白老町国民健康保険税率の見直しについての諮問を行ったところであります。現在、国保税率の見直しについて審議中ですが、第5回国保運営協議会を経まして1月下旬には答申をいただく予定となっております。

また、議会対応としましては2月に第2回本算定結果と保険税率改正の説明を予定しており、最終的には議会3月会議に調定を行う予定でございます。以上をもちまして、簡単ではございますがご説明を終わらせていただきます。

**○委員長（広地紀彰君）** 説明が終わりました。委員からの質疑をお受けしたいと思います。質疑がある委員はどうぞ。

氏家委員。

**○委員（氏家裕治君）** 今の説明で内容はわかりました。1点だけ伺います。3ページ4ページにわたってモデル世帯の本算定結果比較というところがあるのですけれども、白老町は所得500万円夫婦2人（40代）子ども2人世帯というところからずっと見ていくと、むかわ町と比べると白老町は若干低いとか、高いところと低いところの原因というのは、前に僕が言ったと思うのですが、白老町だけが今後努力して保険税を下げようとしてもそれは難しく、北海道全体で取り組まなくてはいけないという話はしていたと思います。この差というのはどういったところにあるのかというのを確認しておきたいのです。

例えば、施設がたくさんあって利用されている方が多いだとか、施設の数が多いだとか、予防に対する意識が低いだとか、そういう原因があってこのような差が出てきているということなのかお伺いしたいと思います。

**○委員長（広地紀彰君）** 畑田町民課長。

**○町民課長（畑田正明君）** 今のところそれぞれ市町村によって額が違うということで、将来的には北海道のほうではこれを一律にしたいというような考え方で改革が平成30年度からスタートするわけですが、ある程度は各市町村今回の見直しによって、それぞれ幅は小さくなってきているのですが、まだまだご覧のとおり各市町村によってはみてもらったとおり差があるということなのですが、1つの要因としましては、今回の場合はそれぞれの市町村が所得によって違うというのが1つあります。それと、委員がおっしゃったようにかかっている医療費によって、医療費の高いところはそれだけかかっているということで、保険税にも反映されて高くなっている。所得もそうなのですがある程度所得のある方についても市町村についてはそれなりに税率も高くなるというような、大きくとらえるとそのような要因としてありますので、白老町は前もお話しさせていただ

いたように所得は全道平均より低いほうなのです。医療費はどちらかという中の上くらいかかる。そのような兼ね合いで、むかわ町でいえば所得の多い町村になっていると。医療費も確か白老町と同じかちょっと下くらいなのですけれども、そのようなことが加味された中で各市町村の差がついてきているというような状況にあります。ですから、先ほどいわれたように医療費を抑制すれば当然保険税も下がってくるという形になりますし、1人平均の所得が上がってくればそれが保険税に跳ね返るといったような形になりますけれども、そのような要因があって各市町村の差が出てきているというような状況があります。

○委員長（広地紀彰君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 多分そのとおりでと思うのです。ただし、今回本算定が出たということで、今後これを改善していく手法が考えられていくのだと思うのです。そういった予防だとかを重視していく、そのための北海道としての考え方も、これはまちはまちで考えなさいといわれてもなかなかできない話だと思うけれど、そういうことが今後打ち出されてくるように思うのです。それについては何か情動的なものは入っているのでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 畑田町民課長。

○町民課長（畑田正明君） 去年から保険者努力支援制度ということで、国のほうで医療費を抑制することに力を入れた市町村には、調整交付金を与えるだとかという手法でやってきております。例としては、特定健診の受診率を上げ何パーセント以上になればこれだけ上げますというような形で、医療費の抑制に国も道も力を入れてきて、それらの財源をもって市町村でやって率を上げたとか、そのような結果を残した市町村にはそれなりの調整交付金を与えるというような仕組みがすでに始まっていますけれども、そのような制度がこれから行われ、何もしないところと頑張ったところの差というのが大きく出てくるというのが、これからの新たな法制度改革になっているのです。

○委員長（広地紀彰君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 今いわれたとおり、健診率を上げたり、そういったことに力を入れたまちには交付金で対応するということは、それはあくまで国としての1つの投資。投資をしながらも将来的な医療費のあり方をちゃんとした絵として描きながら進めていくとして考えられているということで捉えていいのですか。頑張ったところにはある一定の交付金も出すし支援する。そのかわり10年後、20年後、保険税というのはこうあるべきだというのを描きながら進めていく。国の考え方ということで理解していいのですね。

○委員長（広地紀彰君） 畑田町民課長。

○町民課長（畑田正明君） おっしゃるとおりで、スタンス的には今委員がおっしゃられたとおり形で国のほうで財源的に全国の市町村に出します。それなりに頑張ったところには先ほどいったように出しますといった中で、そういう保険事業を実施することによって医療費を少なく抑えようという中で、全国的に、全道的に、将来的には保険税を道内一律な税率にしまして、どこの市町村にいても保険税が同じにしたいというのが、国なり道の考え方になっております。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からに質疑を受けたいと思います。いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

---

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） それでは、これもちまして産業厚生教常任委員会協議会を終了といたします。

（午後 3時23分）